

情報化社会とセキュリティ

Security Technologies in the Information Society

笠見 昭信
KASAMI Akinobu

情報化社会の到来を近年もっとも強く感じさせるでき事として、インターネットの急速な普及が挙げられます。また、普及が目覚ましい移動通信では、W-CDMA (Wide-band Code Division Multiple Access) のような新技術がもたらす映像を含めたサービスの多様化が、放送サービスにおいては、2000年のBSデジタル放送の開始が新しい時代の幕開けを感じさせます。ネットワークを利用した電子商取引 (EC) も着実に発展し、米国では個人購入だけでなく企業間購買の新しいシステムが大きな効果を生んでいます。このような情報化社会の到来は私たちの生活様式さえも徐々に、しかし確実に変えていくと予想されます。そして、このような情報化社会において、各種システムを安心して使えるようにするために情報セキュリティが重要であることはすでに多くのところで論じられているとおりです。

セキュリティ技術は、盗聴や改ざんの防止という“守りの技術”としての側面のほかに、新サービスや付加価値を創出する“攻めの技術”の側面をもっています。弊社でも長年にわたり情報セキュリティ技術の実用化に取り組んでおり、過去に二度本誌に小特集を組みました。今回は、要素技術、機器、応用システムというカテゴリから話題を集め全特集を企画いたしました。要素技術は暗号と電子透かし、そしてバイオメトリクスを、機器では多機能のICカードを紹介しています。また、応用システムとして電子印紙、DVDのコピー防止、コンテンツ配信と衛星による音声・ビデオ放送、EC／電子決済のセキュリティ、プラント制御への適用という幅広い内容を盛り込みました。

情報テクノロジーの進歩の速さは目をみはるものがあります。この特集に紹介するセキュリティ技術も弊社技術の一端であり、発展し続ける技術の現状紹介に過ぎません。今後は社会インフラの整備、機器やシステムの安全性をランク付けする認定のしくみ作りも必要です。これらは一企業だけでは実現できない大きな課題であり、官民協力、産学協調といった新たな取り組みが必要であると考えています。

最後に、情報化社会は距離と時間の壁を取り去り、社会のグローバル化を促進します。安心な情報化社会は技術だけでは達成できません。われわれは21世紀に向けて、単に情報システムを使いこなすだけでなく情報化社会における正しい行動指針、すなわち情報倫理も同時に身に付けてゆかなければならないと考えます。